「問題解決は生徒自身に」

中学校数学研究会 赤本教諭ら授業公開

日本数学教育学会（会長・清水美憲筑波大教授）は26日、オンライン形式で「第7回中学校数学授業づくり研究会」を開いた。道内から初めて道教育大附属釧路義務教育学校後期課程の赤本純基教諭が授業者に選ばれ、全国の教員らに向けて授業を公開した。

同学会は、全国の数学教育に携わる教員や関心のある個人、学校などで構成。同研究会は年1回開かれている。今回は「図形領域における数学的活動の充実を目指して」をテーマに252人が参加した。

この日は、赤本教諭が今年1月に釧路市立鳥取西中学校2年生のクラスで実施した授業など、3人の教員が授業動画を公開。平行四辺形の2組の対辺がそれぞれ等しいことを証明する内容の「平行四辺形の性質と導入場面」が題材で、発表者が授業づくりでの課題や授業の様子などを説明し、参加者の質問に答えた。

研究会で発表する赤本教諭

赤本教諭は授業づくりで重要な点として「『困り方』を共有し、それを乗り越える大事な場面こそ、子供に委ねる」と強調。問題解決に困っている生徒には教員が一方的に教え込むのではなく、「解決法を理解している生徒が教えて、生徒たち自身で乗り越えられるような授業づくりが大切で、コミュニケーションの醸成にもつながる」という意識で授業に臨んだことを紹介した。（嶋守善一）

レイアウト・松井 伸寛